

多治見市学習館・公民館等施設指定管理者候補団体選定及び評価委員会会議録

日時：令和3年7月27日（火）13：30～18：10

場所：多治見市役所全員協議会室

出席者：【委員】益川浩一（委員長）、加藤智章（副委員長）、佐藤 薫、水野美治、原 賢志
伊藤徳朗（企画防災課長）、桜井康久（財政課長）

【事務局】若尾浩好（環境文化部長）
大竹康文（文化スポーツ課長）
鈴木良平（福祉部長）
勝見祐子（福祉部課長 子育て支援担当）
加藤直美（くらし人権課長）
三品文則、近藤信介、富士友紀乃、佐藤美千世（文化スポーツ課）
伊藤和可奈（くらし人権課）
丹羽智裕、中島あゆみ（子ども支援課）
細江恭平（企画防災課）

【指定管理者】（公財）多治見市文化振興事業団

内容／ 委員紹介・事務局紹介
委員長・副委員長の選任
会議の公開・非公開の決定について
指定管理者評価
①各施設説明
（事業概要説明・質疑）
②評価
（事務局評価案説明・質疑・評価）
養正公民館令和4年度指定管理者の選定
①各施設説明
（提案説明・質疑・採点）
②選定会議
選定評価

以下、委員会の内容について、質疑等の要点のみ記載する。

【指定管理者の評価】

《各施設説明》

■学習館・図書館（子ども情報センター）・市民活動交流支援センター

- コロナの影響で、やり方を変えて実施した事業がたくさんあることが説明でわかったが、その中で、コロナが収束したとしても続けていった方がいいものが学習館での事業の中であれば、教えていただきたい。
- 学習館について、アフターコロナ、ウィズコロナにおける事業運営、施設運営の方法で、今回トライアルしてみて非常に有効であった点を含めてお答えいただきたい。

→ 〈指定管理者〉

今まで窓口で受付を行っていたが、密を作らない為に電話での受付を新たに取り入れた。受付初日の混雑を回避しようということで実施したところ、非常にスムーズにいった為取り入れていきたい。また、部屋の消毒について、以前も清掃はしっかり行っていたが、今回のコロナの影響で衛生面を非常に注目するようになり、講座等終了後もきっちり消毒等を行っていくことを取り

入れていきたい。

- BUNBUNねっとの表紙を高校生から公募されたこと、新しいアイデアももらえるし、高校生の発表の場があるということは、とてもよい取組みである。何人の応募があったか。

→ (指定管理者)

多治見工業高校の洋画部と多治見西高校のまんが部に提案し、それぞれ 20 作品ほどの応募があり、その中からBUNBUNねっとの表紙に適したものを選出した。高校との関係もコロナの前から続けており、すぐに対応できたのはこれまでの活動が大きかった。20 作品のうち今回秋、冬号と 1 作品ずつ採用したが、それ以外の作品も非常にいい作品がそろった為、オープンギャラリーで展示し、すべての作品が多くの人目に触れるようにした。

- 図書館の取組みでは、オンライン事業で海外の方が参加されたとのことだが、個人情報の許す範囲内でどのような人がどのような情報で知り得たのか教えていただきたい。

→ (指定管理者)

国は韓国の方である。なぜ韓国の方が参加されたかは、多言語多読、多くの本を読み、その本を読むことによりその言語を獲得するという言語の獲得方法がある。その中で特に英語多読の取組みをしており、その取組みを始めてから 7 年になる。他市の図書館も取組み始めているものの、中々うまくいっている事例が少ない中で、多治見市の英語多読は非常にうまくいっており認めていただいている。多言語多読のNPOから昨年度図書館の多読クラブの情報について説明してほしいと依頼をいただき、オンラインで事例を発表したものを韓国の方がご覧になり、ZOOMを使った多読クラブの活動に応募があったもの。

- コロナ禍にどの施設も工夫して実施されており、新規参加者が増えている。例えば学習館のP210の「古文書講座」「タジミ学」で「定員の 1/3 が新規申込者となり、40~50 代の若い世代の参加が増加し」とあるが、どこの公民館、社会教育施設もこの世代を増やしたいところ。もう少し詳しく説明していただきたい。

→ (指定管理者)

今回これまで図書館だけでやってきたものを学習館と一緒に実施。学習館の広報ツールを使ったことが、新規申込者が増え、新たな年齢層の掘り起こしにつながった。古文書講座は非常に人気の講座で、常に定員 70 名の規模のものだが、1 回受講し、また 2 回目も受講したいという常連の方が結構いる。一番大きかった要因は、全戸配布のBUNBUNねっとに大きく掲載。古文書講座を学習館が行う講座の大きさを掲載した。また「古文書講座」だけでは地味なイメージになるため、昨年大河ドラマ「麒麟が来る」が若い層に人気だったことから、若い層向けに「戦国池田城」という言い方にするなど面白そうだと思うように工夫した。

郷土資料室が今まで積み上げてきたことを学習館が入ることによって崩さないよう担当者ときっちり詰めて、どこまで伝えやすい表現にしようか工夫し、チラシデザインなども色鮮やかにして作ったことが増加につながったと思う。

- コロナ禍のマイナス部分もBUNBUNねっとのようにプラスに転じて工夫されており、施設間、外部機関との連携もこれを機にさらに進んだ姿がよく見えて良かったと思う。休館の期間があったが、その間の利用者、講座参加者との距離をどのように保っていたか。ソーシャルディスタンスを取らなきゃいけないが、利用者の方とのつながり、帰属意識という、図書館のSNSで情報を発信続けた事例があった。へたをすると講座がこのままなくなってしまうのではないかというような危惧を覚える方もいるかと思うが、どこか 1 館で利用者との真の意味でのソーシャルディスタンスをどのように保っていたか工夫があれば教えていただきたい。

→ (指定管理者) 学習館

休館中、さまざまな感心を持っていただくようにHP内に特別ページを設けた。ヤマカまなびパークを来館したことがない方に向けた動画配信で、今まで活動に取り組んでいただいた方々に作品等をお借りし、写真を撮り、このように活動を継続してやっていることを紹介。またヨガの講師にお願いし、家庭でもヨガがやれるように動画を配信するなど、コロナが明け再開できるようになったらこのように学習館は講座をやっていくという姿や、手作り雑貨を作ってみないかという学習館職員からの呼びかけを含めコンテンツとして面白く見てもらえるようなものを揃え

た。コロナが明けた時にはこのように活動を楽しみ続けられます是非来てくださいという気持ちを込めてページを作り、呼びかけをした。幸いにも6月から講座を再開したところ、確かに人数は減ったが「待っていました」と言っていたきうれしく思っている。

- 保たねばいけないのはフィジカルディスタンスであり、真の意味でのソーシャルディスタンスというのは、人のつなぎとめということが今回の課題であったが、よくわかる説明であった。

《評価》

- 事務局案の評価が厳しいのではないかと。特に自主事業で代替として実施しているものもあり、昨年と比較して学習館に限らず全体的に点数が厳しい印象がある。やろうとしてできなかったがそれに替わって努力したことは評価していいのではないかと。

→ 〈事務局〉

今回、事務局内でも相当議論をした。コロナの影響があり、その中で頑張っておられることは重々承知している。しかし、このような状況であれば事業は縮小となることはやむを得ない。ただ例年高レベルの点数をつけており、このような状況でそのレベルを継続できているかどうかである。我々が扱っている施設は、生活の最低限を維持する施設ではなく、生活のうわずみの部分、生活を豊かにするものである。評価が厳しいと言われるが、「良好」という評価であるため、厳しいとは思っていない。来年度以降コロナが明け通常の状態になった時には、より成果を上げていただくためにも、今回はやむを得ないと考えこのような点数、評価とした。

- 評価の結果は、指定管理者側にはどのように伝わるのか。点数だけなのか、今言われた内容も示して伝えていただきたいと思うが。

→ 〈事務局〉

通常は、点数と「良好」などの評価のみを伝えるが、環境文化部長は文化振興事業団の理事である。理事会で議事にあげれば、この意図をしっかりと説明する。

- 84点「良好」という評価で了解いただければ、それをフィードバックされると思うが、評価委員会でこのような意見が出たことを含めてフィードバックすることは規程上難しいのか。

→ 〈事務局〉

委員会の中でこのような意見があったことを伝えることはできる。

- 市民活動交流支援センターの総合評価書の「(2) 評価」の「4 指摘事項」について、特段かわったことではなく、事業として当たり前にやられているようなことが取上げて書いてあるが、担当課と指定管理者とで擦り合わせができていないのか、それとも今まで指導してきたが中々改善されていないのかどうか説明いただきたい。

→ 〈事務局〉

擦り合わせは行っている。その中で市民活動交流支援センターはとても頑張ってもらっているが、こちらが期待する取組みには至っておらずこのようにさせてもらった。

- 委員の方々から提案があったように、コロナ禍であってもシビアに点数をつけたという事務局の案であるが、先ほどの（指定管理者の）説明を聞いているとコロナ禍の中でもうまくプラスに転じながら工夫された足跡が非常によく見える。学習館等の評価について、事務局案のおり点数は84点、「良好」としつつ、評価委員会で先程の意見が出たことを伝えることは可能ということなので、「コロナ禍の中でもしっかりとやっていることを評価している」旨を含めてフィードバックすることとしたい。

評価結果：事務局案で了承

ただし、評価委員会の意見として、工夫して非情に頑張っている点は評価していることも含めフィードバックさせていただくこととする。

《各施設説明》

■公民館【養正・旭ヶ丘・小泉・脇之島・市之倉・南姫】

- 養正公民館事業の多治見高校生徒によるサイエンスショーはこちらから提案したのか、高校生の方でメニューを持っていたのか、流れなど詳細を教えてください。

→ (指定管理者)

多治見高校2年生の学習の中に探求ゼミというコースがあり、教員を目指す生徒が、地域での活動の場を求めている。普段は県の施設に行っているようだが、コロナの影響で会場に困っていた。毎回養正公民館でやってもいいと思うが、学校としてはいろいろな所でやりたいという思いがある。2年度に限っては公民館で行いたいとの要望を受け、できるかどうか心配だったが、断るのではなくやれる方法を探して実施しようと引き受けた。当初は、笠原中央公民館のホールのステージ上で実演をし、距離を離し客席で見ることを計画していたが、コロナの影響でできないことになるなどの過程を踏み、最終的に養正公民館のホールで工夫して実施した。

- 公民館であれば高齢者が多いと思うが、リモート事業となると距離を感じてしまう方も多いのではないかと、どのような工夫をしたか。特に脇之島公民館はどうか。

→ (指定管理者) 脇之島公民館

やはりリモートとなると高齢者は大変難しかったが、その中で希望される方だけをとということで、家族などがサポートしてもらえる方にした。対象とした団体は比較的若い人が多かったため実施が可能だった。ただし、実施する前に参加者に聞き、果たして実現できるか、サポートしてくれる方がいるかを確認した上で行き、無事に終了できた。

- どの公民館もピンチをチャンスに替える取組みを実践されている。コロナ禍だからできないのではなく、その中でできることを模索され、すばらしいと実感した。異年齢が交流する場を設けたり、この機会に施設をきれいにしようとする取組みをしたり、バリアフリーにしたり、リモートが取組みやすいなどの工夫など、それは地域に愛されていると感じられる。これから社会教育を含め学校教育でも、子どもたちを地域で育てていくことが盛んに言われ、コミュニティスクールや学校との連携、地域と一緒にまちづくり、子ども育てを考えていただいているが、養正公民館での地域ボランティアによる非常階段の高圧洗浄と第二駐車場の除草作業は、これこそ学校でも地域でもこういうことができるのが望ましく、お互いに声を掛け合う姿の象徴ではないかと思った。これは、公民館から依頼したのか、自然に地域から沸き上がったような状況だったのか、教えていただきたい。

→ (指定管理者)

非常階段は普段は使われないと思うが、養正公民館は2階に料理教室があり、重い荷物を持ち運ぶことがあるため非常階段をたくさんの方が常に使われている。その非常階段はよく黒ずんで藻がはり危険なため、年に1回程度は洗浄したいとボランティアの方に話したところ、自分たちがやろうと言っただき、自宅に高圧洗浄機を持ってみえる方にやってもらった。除草については、養正公民館活性化委員のみなさんが定期的に自発的に何年も前からやっただき大変助かっている。

- 地域と密着し、絆ができていて、すてきな取組みである。
- 盛りだくさんの内容を日々こなしてみえる。デジタル化、屋外の事業がポイントだと思う。オーガニックライフ、ウォーキングなどの企画もとてもいいと感じた。日々自分も子育て世代と接しているが、子どものエネルギーの発散場所がないということをよく聞くため、高齢者まで広い世代に向け、これからコロナ禍以降も注目度No.1でやっていただきたい。
- 鏡張りの部屋にされた公民館や料理教室を会議室にするなど工夫されている。いつもその館を利用されている方にはそのような情報が入ってくると思うが、違う施設を利用してそのような情報を知らない人もいると思う。そのような情報をどのように発信されているか。

→ (指定管理者) 小泉公民館

環境整備をしたことなどの情報は、公民館だよりで周知している。小泉公民館は、まだHPまで進んでいないため、今後HPなどのツールも使っていけたらいいと考えている。現状は、

紙面での情報発信となっている。

- 多治見市の公民館の一つの特徴として捉えているのは、活性化委員である。まさに公民館の応援団として、地域の方々がさまざまな形で主体的に関わっている。今回南姫、小泉、市之倉ではコロナ禍の中でも活性化委員が活躍されている。他の公民館で、このコロナ禍で活性化委員が距離を取らざるを得ないこともあったかもしれないが、活性化委員の取組みで、特色あるアピールできる点などあれば、どこか1館説明いただきたい。

→ 〈指定管理者〉市之倉公民館

市之倉公民館では、平成15年度からイルミネーションを飾っている。公民館の活性化委員が地域のまつりに参加し、そこで得た収益で飾っている。市之倉は陶器の町であるが、陶磁器市場を取り巻く変化から地域の窯元がずいぶん減ってきており、委員は町を元気にしたい、子どもたちの笑顔が見たい、そのような思いからイルミネーションを実施。令和2年度は、コロナ禍ということもあり、一度は自粛を決めたが、町の中から「こんな時だから飾ってほしい」という声があり、急遽会議を開き飾ることになった。テーマは、「青いエール」。医療従事者への感謝を込め、市之倉公民館をブルーにライトアップした。このイルミネーションには、私たちがからのメッセージがあり、医療従事者の方の負担を少しでも軽減できるように、今自分たちに何ができるか、例えば不要不急の外出をしないなど、今自分にできることを考えていただくということが、イルミネーションに込めたメッセージである。

《評価》

- 養正から脇之島公民館は82点、市之倉公民館と南姫公民館は81点と差がでていますが、その要因は何か。

→ 〈事務局〉

それぞれ相対的評価はしていない。評価がはっきり分かれるところは、市の事業の企画、自主事業の企画になり、どこまで色濃い事業をやっているかということになることが一つ。よりよい施設運営、事業実施についてもコロナ禍でどのような取組みをされたかをその館の中で評価している。

- あくまで絶対評価ということで、それぞれの公民館について点数を積み上げていったらこのような得点になったということの理解でよいか。
- 点数の差は、地域カラーにもよることやいろいろな事業をやられているので差がでると思うが、項目の苦情対応で4点、5点と分かれている。例えば、市之倉は4点だが、全体的な評価では苦情対応はよくやっているとしながら4点であるし、特段コメントがないところが5点である。このあたりはバランスを欠いているのではないか。

→ 〈事務局〉

苦情なしは5点というルールがあり、苦情があっても適切な対応には4点となっている。特に苦情がなくコメントがないものは5点になってしまうという違いである。

→ 〈事務局〉

委員が言われることはもともと、苦情がないと5点というのは全庁的なもので変えられないが、苦情がなければいいのかといえばそうではなく、しっかり対応したことが大事。4点のところもしっかり対応しているように感じるため、協議いただき点数を変えてもらってもいい。

- 該当の所は市之倉公民館か。
- 全体的な評価でよくやっているとありながら4点となっている市之倉公民館が気になった。また脇之島公民館も4点だが、コメントには苦情に対して迅速かつ適切に対応したとあるのに4点である。
- 苦情の観点からいえば市之倉公民館と脇之島公民館か。基準は苦情がなければ5点、苦情があっても適切に対応したら4点、これは市の統一的な基準と考えてよいか。

→〈事務局〉

昨年度までは苦情なしは4点だったが、見直されて苦情なしは5点になった。

- 市の全体的な基準であれば、それがいいか悪いかの議論があると思うが、ここで数字を変えるのは難しいと考えられるがいかがか。
- 苦情はあっても現場でいろいろ話を聞き、事務局がよりサービスが向上したと思うのであれば5点をつければいいのではないかと思う。
- 市之倉公民館、脇之島公民館の苦情対応4点について、ヒアリング等のプロセスで委員が言われた基準に照らし、よくなっているのであれば5点としていいと判断するがいかがか。

→〈事務局〉

市之倉公民館の苦情の内容は、配られた公民館だよりも余分に入っていたというもので、適切に対応したというだけであるため4点でいいと思う。脇之島公民館はトイレのいたずらがあったというものだが、以前から変わった方がおり、うまく解決できず長びいているため5点まではいかない。よって4点でいいと思う。

- 事務局案どおりの理解でいいか。

→〈事務局〉

それでよい。

- その2つの公民館の点数は、事務局どおりとするが、市全体の基準に関わることであるため、評価委員会でこのような意見があったことを伝えていただき、これからどのように扱うか引き続き議論していただくことでよろしいか。

評価結果：事務局案で了承

ピンチをチャンスに変え、コロナ禍で工夫されていることを評価していることを伝えてほしい。

〈各施設説明〉

■笠原公民館、図書館分館、笠原体育館

- 笠原には、「いこまちゃん」というマスコットキャラクターができ、館長が小学校や区長と連携をとって、いろいろなイベントに参加している。またシトラスリボンを作り、中学校のPTAと一緒に連携をとり、笠原町だけでなく市全体に波及しようとしており、今は養正でも取り組んでいる。時間の関係で発表されなかったが補足しておく。
- どの施設もコロナの影響で利用者数が減っている中、笠原分館は図書の本数が増加したことを評価している。
- 驚いているが、秘策はあるのか。あれば説明いただきたい。

→〈指定管理者〉

図書館という場所を本の貸出しをする所だけと思うのではなく、人と人とのつながりをとって大事にしている。コロナで閲覧スペースをなくす為に撤去したテーブルを使い、本を平置きにした。本の表紙が見え、来た人は本を探しに行かなくてもその本を手にとることができる。また、テーマもコロナ禍でどこにも行けないから本で旅行をしてみようという本を並べてみたり、花の本を並べてみたり工夫があったため冊数が増えたことにつながったのではないかと。人と人を大事にした結果かなと思っている。

- 非常に大事なことだと思う。
- 笠原体育館では、クラスターが発生することなく運営していただいた。動画配信を毎週行い、一旦理由があって1回やめられたが、このようなことはコロナが落ち着いた後もずっと継続されていくのか、今後どのように展開されていくのか。また動画配信の利用者が多い回と、少ない回とあるが反響はどうだったか、もう少し説明いただきたい。

→〈指定管理者〉

動画に関しては、YouTubeの他にFacebookなどにもリンクをはり、見ていただいている。Facebookが一番の反響があり、100回以上の視聴があった。トレーニング室に通う方からリモ

ートを見てやってみたよとの声も一部いただいた。ただし、今の時期だとリモートでのトレーニング動画というものが飽和状態になってきている。今後は、新しく始める教室などの情報を配信、またスポーツ協会の事務局も兼ねているため、スポーツ協会所属のいろいろな団体のトレーニングや様子などの紹介をするなど、もう少しコンテンツの内容や種類を豊かにしていきたい。

- いろいろな工夫をされ、コロナ禍ということを感じさせない取組みをされている。公民館も図書館分館も学校との連携を大事にし、職員の方には研修も受けていただき、地域で子どもたちを育てる拠点になっている。その中でも心を育てる拠点となっていることを実感した。シトラスリボンもコロナ禍やその先までみこし、町一体となってやられておりすばらしい。また、図書館の人数が逆に増えていることに驚いている。アウトリーチで、認知症カフェへに読み聞かせに行かれるというのは、次につながるような、来るのが難しければ行ってしまえという形でやられているのはすごいことである。大変勉強させてもらった。体育館の施設の利用及び予約方法について県外から問い合わせが多く寄せられたとのことだが、コロナの影響で地元施設が使えないということもあると思うが、利用者の割合はどれくらいであったか。

→ (指定管理者)

従来からの定期利用者もあり、徐々にこんなに便利なところがあるのかと近隣の瀬戸市、春日井市、犬山市、扶桑町あたり。名古屋市であれば守山区の団体や個人が笠原の便利さに気づき注目して、インターネットで予約されるようになってきた。若干比率が上がってきたこともあったが、現段階でワクチン接種やまん延防止が解除になってきたことにより減ってきている。今は、体育施設がワクチン接種の会場にあてられている自治体の方が主に多く来られている状況である。

- ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、ベストミックスの取組みがされている。館内での活動とアウトリーチの組み合わせや対面の手触り感のある取組みやオンラインのリモートを使ったものといったもの。元通りの状況になるのは難しいと思うので、是非ウィズコロナ、アフターコロナの状況を意識しながら取組みを進めてほしい。

《評価》

- コロナ禍では利用状況は統一的に4点としているが、休館があったにもかかわらず、図書館は、昨年と同様あるいはその月を除けば上回るといったもので、コロナ禍で工夫されながら、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて進めていることもあり、是非前の施設と同様、大変シビアに採点はしているが、しっかり頑張っている点を評価委員会の総意として出たことを指定管理者に伝えてほしい。

評価結果：事務局案で了承

《各施設説明》

■根本交流センター・精華交流センター

- コロナ禍で大変であった中、工夫されている。根本交流センターで、コロナで休館になって活動できないと団体の継続が難しいと思う中で、7団体の新規団体がある。既存団体の気持ちをつなげる工夫や新たに活動を続けていく工夫をされている点があれば教えていただきたい。

→ (指定管理者)

現在、根本交流センターでは70団体が活動されている。コロナ禍において、最初の頃は大変不安が大きかったが、何より安全対策をきっちり行ってきた。いろいろ対策を講じ、根本交流センターが安全であることを周知し活動を進めてきた。その結果、活動団体が少し減ったこともあったが、コロナ禍で少なくなった団体の応援をすることで新たに7団体でき、現在71団体

が活動を行っている。

- 年次報告の写真をみると、根本交流センターのオンライン（ZOOMで）活性化委員会には、年配の方もみえるが、ここにいくまでどのように整備され、アドバイスされたのか教えていただきたい。

→（指定管理者）

ZOOMを始めるにあたり、高齢者はZOOMってなんだろう、すごく興味がある方はみえるが、個人では参加できないという声がたくさんあった。交流センターと地域で活動されている地域力のメンバーの方の協力を得て、ZOOM教室を何回か開き、勉強会を行った。そして当日のふれあいフェスティバルにつなげた。高齢の方でありながら積極的にZOOMの勉強をされ、当日にぎやかにパネルディスカッションをすることができた。

- 交流センターという特徴ある施設、公民館機能と児童館機能が一緒になり、1+1=2ではなく3、4になることを目指した特徴ある施設である。どちらのセンターでもいいが、相乗効果がでたというような取組み、令和2年度コロナ禍で難しかったかもしれないがあれば教えてほしい。

→（指定管理者）精華交流センター

コロナの影響で子どもたちの夏休みもなくなってしまったが、例年どおりラジオ体操を実施したところ、コロナの中でも毎日50～60人が参加された。そこではいろいろな多世代の交流があり、いつも全然家からでていない人がラジオ体操だけ来て、かわいい子どもたちの声を聞いたり、いろいろ人と話ができたりするなどの姿がみられた。時間は、第一、第二体操をやって10分ほどですぐに帰ってもらっていたが、交流センターとして開催できたとてもよい事業であったと思う。

《評価》

- 精華交流センターで児童館利用人数は本土児童館の頃より減っているが、乳幼児と保護者の割合が増えている。何か新しい利用者が増えているのかとの印象を受けたが、どう考えているか。また、根本交流センターが優良公民館表彰を受けられているが、その評価はどのように考えているか。

→（事務局）

精華児童館は初年度で比較対象がなく、強いて言えば本土児童館が比較対象となる部分があるかと思うが、全く新しい施設の中で、当然対象も一部変わっていると思う。全て本土児童館の方が移行してきているわけではなく、交流センターとなり新しい方が利用されているということも思っている。また、多世代交流を進めるという部分では、来年度以降の評価につなげていきたいと考えている。

根本交流センターの公民館表彰については、前年度申請し翌年度表彰となるため、令和元年度で根本交流センターを評価している。

- 優良公民館については、表彰を受けたということは大きいことで、全国的に認められたものだということを是非アピールしていただくべきだが、この指定管理事業、自主事業、施設管理事業の評価は2年度についてどうだったかという判定であるとの説明であった。

精華交流センターは量の部分だけでなく質の部分の新たな開拓という部分も今後見ていく必要があるのではないかとのご指摘だと受け止めた。数字ももちろん大事で外せないものだが、内容についても話しながら評価していくという視点をもっといただき、先ほど言われたように来年度以降そのような目を持って、総合的な形で評価していただきたい。

→（事務局）

提案したあとに申し訳ないが、精華交流センターの総合評価書の「苦情対応」の実績に掲載してある「貸室での音が出る活動・・・」は、合唱団の音が出ることに近隣への配慮が必要であるというものだが、一方、コロナで換気は重要なため、合唱団との調整が非常に大変であることを先日聞いた。所長を始めとし職員が近所をまわり理解していただくよう苦勞して対応されたという状況であった。そのため苦情はあるが、1点あげて期待以上にさせていただけ

らという提案をお願いしたい。

- 地域に対し、きめ細やかで丁寧かつコロナ禍での適切な対応をされたということであるが、評価を上げるという提案だがどうか。…全員了承、5点とする。
- 総合評価書の「事業収支」で、今までの公民館等はコロナを加味して4点だったが、3点にした理由はあるか。

→〈事務局〉

説明不足であった。利用料金制をとっている施設に関しては一律4点である。養正公民館の事業収支が、3点になっているが分析、評価、指示等欄に「新型コロナウイルス対応一律4点（令和2年度のみ）」と誤った文言が入っており、削除願いたい。

公民館は利用料金制ではなく使用料制で貸館をしている施設である。一律4点は適用しないとうご理解いただきたい。

- 養正公民館も得点は変わらないが、適切でない文が入っていたことを併せて確認し、ご承認いただきたい。基本的には、市の統一で利用料金を適用しているところについては一律4点の得点をつける。使用料でやっている施設については、それは適用しないということによろしいか。つまり交流センターは利用料金制ではないということである。

評価結果：事務局案で了承

《全体講評》

コロナ禍においても指定管理者はしっかりと業務を行っている。コロナ禍で浮かび上がった評価として、次の3点を高く評価する。

- ① 指定管理者内のみならず外部との連携、内外との連携がしっかりとれている。
- ② マイナスをマイナスにとらえるのではなく、プラスに転じて前向きな姿勢で事業に取り組んでいる。
- ③ 利用者の声をしっかりと聴いている。利用者の目線まで下りてきて、その目線でどういう事業を展開するかを捉えている。

評価得点はシビアになったが、委員会としては各施設ともよく頑張っていることを認めているので、指定管理者に伝えられたい。

なお今後については、いつまでもコロナを理由に後ろ向きであってはいけない。

ウィズコロナ、アフターコロナ、ニューノーマルの中でのベストな取り組みを行政と指定管理者と一緒に考えていく必要がある。

例えばSDGs、Society 5.0、DX、カーボンニュートラルなど、今後、市民協働で取り組むべきことが様々出てきている。生涯学習や文化振興の分野においてもそういった取り組みを見据えて、事業を推進していくことが必要である。